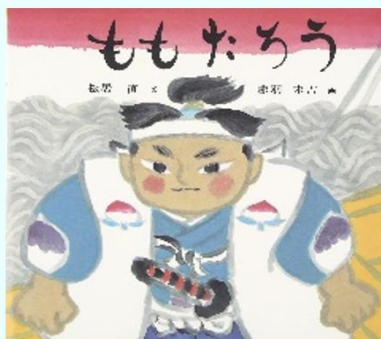




『ももたろう』

松居 直／著
赤羽 末吉／画
福音館書店

赤羽末吉さんの見事な日本画による絵本は評価が高く、宝物のような傑作です。昔話らしい言い回しをふんだんに使いながらも、リズムよく、わかりやすい文章なので、大きな声で読んであげてください。



『はじめてのおつかい』

筒井 頼子／さく
林 明子／え
福音館書店

お母さんに頼まれて牛乳を買いに、はじめてのおつかい。転んでお金を落としたり、お店のおばさんに気づいてもらえなかったり。不安な気持ちや、やりとげた時のうれしさ、心の動きが伝わってきます。



『14ひきのあさごはん』

いわむら かずお／作
童心社

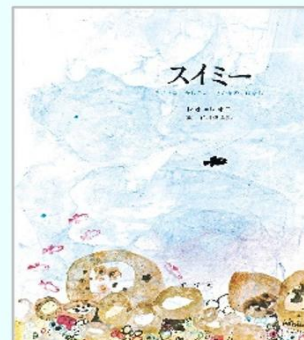
ねずみの大家族が、みんなで準備した幸せな朝ごはんを囲みます。自然の描写が繊細で、家族1匹1匹の個性も描かれています。絵の世界をじっくり味わう楽しさを、教えてくれる絵本です。



『あしによきによきによき』

深見 春夫／作・絵
岩崎書店

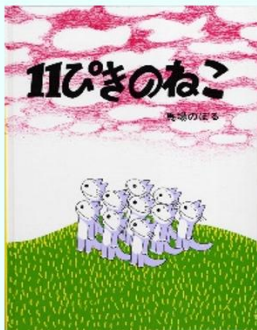
おじさんが空から落ちてきた大きな豆を食べると、なぜか足がによきによきのびました。森をぬけ街に出ると、なんと向こうからも靴下をはいた別の足が…。絵もお話もユーモアたっぷり。



『スイミー』

レオ・レオニ／作
谷川 俊太郎／訳
好学社

「ぼくが、目になろう。」印象的なこのフレーズに教科書で出会った方も多いはず。懐かしいお話を、親子でもう一度味わってみませんか。懐の深い海の美しさが、優れた技法で表現されています。



『11ぴきのねこ』

馬場 のぼる／著
こぐま社

はらぺこのねこたちは、じいさんねこに教えられ、大きな魚を求めて、遠い湖にやってきました。知恵をしぼって力を合わせ、やっと捕らえたこの魚。みんなに見せるまで食べないと約束はしたけれど…。



『おおきくなるって いうことは』

中川 ひろたか／文
村上 康成／絵
童心社

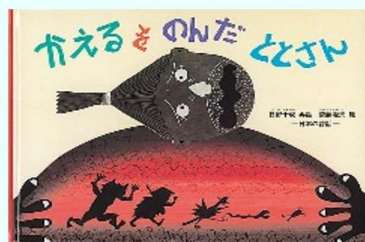
リズム感のある文章と可愛らしい絵。服が小さくなったり、自分よりも小さな人に優しくなれたり…「大きくなるって、ステキなことなんだよ。」とゆっくり語りかけてくれる絵本です。



『いいからいいから』

長谷川 義史／作
絵本館

最初のページは格言のように掛け軸にしたためられた「いいからいいから」。なんともおおらかなおじいちゃんの口癖です。張りつめていた気持ちがふっと軽くなる、大人にも嬉しい絵本。



『かえるをのんだととさん』

日野 十成／再話
斎藤 隆夫／絵
福音館書店

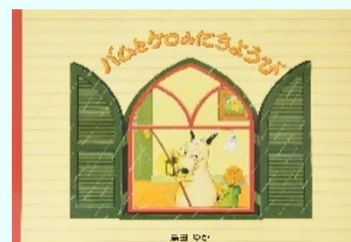
おなかの中の虫を退治するために、おしょうさまのすすめでいろいろと飲まされるととさん。「次は何を飲まされるのかな？」親子でドキドキしながら楽しめます。節分の読み聞かせにもおすすめです。



『なつのいちにち』

はた こうしろう／作
偕成社

子どもだけでなく、大人もかつて夢中になった夏の体験を描いた絵本。まぶしい光、一面に広がる田園風景、その中を「今日こそクワガタを捕まえるぞ!」と、走り抜ける少年の描写が素敵です。



『バムとケロのにちようび』

島田 ゆか／作・絵
文溪堂

雨。外で遊べない日曜日。部屋を片付け、本を読もうと計画するバム。きれいに掃除した所に、どろだらけのケロが帰ってきます。どうなるのかな。絵にも遊び心がいっぱい。発見を楽しみましょう。



『オニのサラリーマン』

富安 陽子／文
大島 妙子／絵
福音館書店

地獄に務める赤鬼のサラリーマンが主人公。子どもたちに見送られ、愛妻弁当持って、今日も満員バスで出勤です。血の池地獄の見張りの仕事、居眠りしてしまい大失敗。今日もお仕事お疲れさまです。



『かにむかし』

木下 順二／作
清水 崑／絵
岩波書店

さるかに合戦として有名な昔話。会話やかけ合いのテンポのよさは、耳で聞く言葉を知りつくした劇作家、木下順二さんならではの。「かにどん。かにどん。…」と、お子さんと一緒に読んでみてください。



『おうさまがかえってくる 100びょうまえ!』

柏原 佳世子／作
えほんの杜

「100びょうで ヘヤを かたづけろー!」1から100まで数えながら読む、ハラハラドキドキの楽しい絵本。最初と最後のページをしっかりと見くらべて、まちがい探しにもチャレンジ!



『めっきらもっきら どおんどん』

長谷川 摂子／作
ふりや なな／画
福音館書店

めちゃくちゃな歌をうたったかんたは、お宮の木の穴から異世界へ飛び込み、おかしな3人組と出会います。そこでのダイナミックな遊びはわくわくです。言葉のもつ不思議な魅力を味わってください。



『くれよんのくろくん』

なかや みわ／さく・え
童心社

素敵なアイデアで仕上がる最後の絵。楽しみに読み進めて下さいね。個性の違いを尊重する事や、友だちとのかかわり方など、大切な事を教えてくれます。読んだ後は、お絵かきがしたくなるかも。





『おじさんのかさ』

佐野 洋子／作・絵
講談社

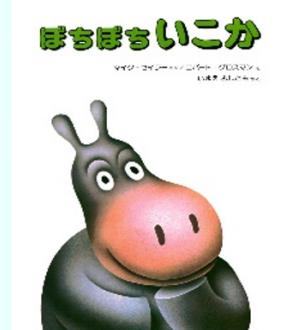
いつも傘を持って出掛けるおじさん。雨がふっても傘をぬらしたくないので使いません。そんなある日…。雨の匂いがするような、空色の輪郭の絵はムード満点。雨音も楽しみになりますよ。



『まないたにりょうりをあげないこと』

シゲタ サヤカ／作・絵
講談社

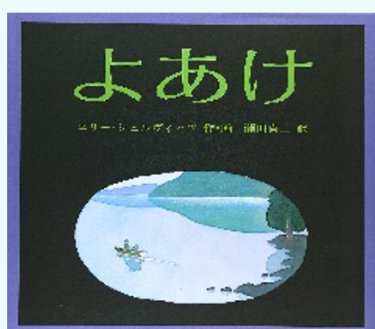
「このレストランの りょうりを たべてみたいな～」くいしん坊のまな板の願いを、お人好しのコックさんは断れません。こっそり料理をあげ続けるのですが、その結果まな板は…。一体どうなる？



『ぼちぼちいこか』

マイク＝セイラー／さく
ロバート＝グロスマン／え
いまえ よしとも／やく
偕成社

「なんとかなるよ。のんびりやろう」とほっこり笑顔になれる絵本です。失敗続きだけどやる気まんまのかばくん。その目の表情と、テンボのいい関西弁の言いまわしがなんとも楽しいですよ。



『よあけ』

ユリー・シュルヴィッツ／著
瀬田 貞二／訳
福音館書店

山の湖畔で眠っているおじいさんと孫。湖面にうつる白い月は、さざ波にゆらぎます。山と湖を背景に、刻々と変わる夜明けの美しさを表現した芸術的な作品。この静けさを親子で体感してみましょう。



『ひとまねこざる』

H. A. レイ／文・絵
光吉 夏弥／訳
岩波書店

とってもしりたがりやのおさるのジョージ、気の向くままの行動は子どもたちがやってみたい事そのものでしょう。そんな主人公と一緒に、わくわくハラハラを体験してください。



『ちいさいおうち』

ばーじにあ・りー・ばーとん
／ぶんとうえ
いしい ももこ／やく
岩波書店

「ちいさいおうち」は静かな田舎にたっていました。ところが月日が流れ、周囲は村から町へ、そして大都会へと姿を変えていきます。取り残されたおうちの結末は？丁寧に組みたてられた傑作です。